



2024年4月

日本耳科学会
会員各位

【重要】聴器毒性を有する薬剤の使用に関する注意喚起

平素より学会活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

鼓膜穿孔を伴う症例に対して、聴器毒性を有する薬剤の局所使用により、内耳障害が発症する可能性があります。薬剤により障害は主に内耳に生じ、多くの場合不可逆です。聴器毒性を有する薬剤の数は多く、これらをよく理解したうえで耳科診療に当たるべきであり、会員に向け広く注意喚起します。

(参考) 聴器毒性を有する代表的薬剤

- ・ クロルヘキシジングルコン酸塩エタノール
- ・ ポピドンヨード液 (10%原液) およびポピドンヨードスクラブ液
- ・ ピオクタニン液
- ・ ブロー液 (13%酢酸アルミニウム溶液)
- ・ アミノグリコシド系抗菌薬 (ゲンタマイシン、バンコマイシンなど)
- ・ 白金製剤 (シスプラチンなど)
- ・ ループ利尿薬 (フロセミド)
- ・ サリチル酸系薬剤 (アスピリン)

参考文献

1. 萩森伸一：【聴覚障害を生じる薬物】点耳洗浄. 耳喉頭頸 81(11)：747-752, 2009.
2. 村上信五, 宇佐美真一, 山岨達也, 他：難聴 (アミノグリコシド系抗菌薬、白金製剤、サリチル酸剤、ループ利尿薬による). 改定新版 重篤副作用疾患別対応マニュアル 第4集. 日本医薬情報センター (JAPIC) 編. 日本医薬情報センター (JAPIC), 東京, 2023, pp413-436.

一般社団法人日本耳科学会
国内学術委員会